

Ⅲ や っ ち ゃ ば 閑 話

「未知との遭遇（ことば編）」

都道府県をまたぐ転校を経験してきた筆者の考える「転校生がぶつかる壁」の一つが「ことば」です。それはイントネーションだけでなく、未知の単語との遭遇も含まれます。

どういう状況だったか詳細は覚えていませんが、北の大地の小学校へ転入して間もないころ、クラスメートにこう呼びかけられました。

「ぼっこばくりっこしよ」

当時の自分の言語データベースに「ぼっこばくりっこ」は未登録でしたが、転校生は地域で 사용되는ことばを一刻も早く理解し、適切なコミュニケーションを取れるようにならなければいけません（個人の感想です）。北海道で「サビオ」と言われたら絆創膏のことだし、大阪で「いんじゃんほい」と言われたらじゃんけんのことなのです。え？ 何？ なんてやっていたら仲間に入ることができません（個人の感想です）。

さて、「ぼっこばくりっこ」について頭をフル回転させていると、「そのぼっこ、このぼっこ、ばくって」と重ねて言われました。つまり「ぼっこ」は物、「ばくりっこ」は行為だな、と意味を察した筆者は、ぼっこ（棒状の物体）を相手と交換（ばくりっこ）しました。正解。

それからうん十年。知らないことばに遭遇する機会が多いのは、やはり異動直後ではないでしょうか。新たな場所で読んだり聞いたりする未知のことばについて、周囲のベテラン勢に尋ねたり、わかったふうにやり過ぎてあとで調べたりしながら、コミュニケーションを重ねるという日々は、転校初期と似たようなものかもしれません。

そこでは当たり前に使われることばでも、よそから来た人間には未知との遭遇。この3か月の間でも新たなことばにたくさん出会い、寝不足の頭に少しずつ単語登録を進めているところですが、なかなか昔のようにはいきません。

余談ですが、「ばくる」という言葉は、牛馬の売買やその仲介をする人のことである「博労（ばくろう）」に由来する方言という説があるそうです。これを知ったとき、自分の中で別々に認識していた「馬喰町（地名）」「ばくろう（今でいう家畜商）」「ばくる・ばくりっこ（方言）」ということばが一つの線でつながり、「なるほど」と目から鱗が落ちた気持ちになりました。

（ぢめんを泳ぐねこ）